

# 論文誌「大学情報システム環境研究」執筆要領

## Guideline to Prepare the Paper for “Academic Information Processing Environment Research”

山 太郎\* , 川 花子†

Taro MARUYAMA\* and Hanako SANKAKUGAWA†

大学\*

□□ University\*

富士通株式会社†

FUJITSU LIMITED†

論文誌「大学情報システム環境研究」掲載論文に関して、日本語タイトル、英文タイトル、日本語執筆者名、英文執筆者名、日本語所属、英文所属、電子メールアドレス、日本語アブストラクト、日本語キーワード、英文アブストラクト、英文キーワード、本文の形式、フォントの種類、大きさ、図・表に関する指示、参考文献の書き方、著者略歴、写真の位置、印刷時の体裁を定める。執筆者はできるだけこの指定に従うことを期待されている。

**キーワード**：大学情報システム環境研究，執筆要領，印刷見本

The author can find the details about how to prepare a camera-ready paper for “Academic Information Processing Environment Research” from the view point of position, font, and size of title, author name(s), affiliation, abstract, keywords, figure, table, references, and so on in Japanese and English respectively. The author is strongly expected to follow the guideline to prepare a camera-ready paper for “Academic Information Processing Environment Research”.

**Keywords** : Guideline for “Academic Information Processing Environment Research”, camera-ready paper

---

\*情報基盤センター

〒000-0001 札幌市 1-1-1

Information Technology Center

〒000-0001 1-1-1, □□, □□-shi, □□, JAPAN

E-mail : ○○@□□.ac.jp

†大学ビジネス推進部

〒105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2

Higher Education Business Promotion

Dept.

〒105-7123 1-5-2, higashi-shinbashi,

Minato-ku Tokyo, JAPAN

E-mail : △△@jp.fujitsu.com

## 1. はじめに

論文誌「大学情報システム環境研究」は国立大学情報システム研究会 (IS 研究会) が年 1 回発行する論文集である。大学における情報システムの管理・運営や利活用などに関する内容を報告することで会員相互の情報共有を円滑に行うことを目的としている。またこのような日頃の活動に関する報告がなかなか権威ある学術論文誌に論文として採録されにくい現状を踏まえ、業績として認められるように、学会と同レベルの査読を行っている。本誌に投稿するには、事前に各地区ブロックの研究会で発表するか、年に 1 回の総会で発表することが要請されている。改めて関係者の貢献を歓迎したい。ここではこの論文誌に論文、報告などを投稿する際にまもるべきスタイルについて解説する。

## 2. 基本方針

- 記述言語は日本語または英語とすること。
- 最終原稿は PDF ファイルとすること。その際、フォントを埋め込んであることが望ましい。
- 原稿は A4 ポートレート(縦長、詳細は後述) とし、特に枚数に制限を設けないが、通常の学会論文誌に準じて 8 ページ程度が望ましい。記述が冗長にならないように十分に注意すること。
- 論文については原著論文、実践論文の 2 種類があり、特に「オリジナルな研究、世界で初めての実験・試行の結果について述べたもの」は原著論文とし、先進的な試みについて述べたもの等は実践論文として取り扱う。
- 論文(原著、実践) の他に、解説、報告、その他(総説・展望、技術紹介など) という分類を設ける。
- 分類については、著者が申告するものとするが、論文誌編集委員会において分類の変更が必要と判断した場合には著者の了解のもとに分類の変更を行う。
- 編集委員会において、発表内容にコメントがついた場合は修正を求める。その際の締切は原則として修正依頼の連絡後二週間以内とする。ただし最終原稿の締切については、状況に応じて論文誌編集委員会が指定するものとする。
- 原則として論文は 2 名以上の査読委員が、その他の原稿は 1 名以上の査読委員が査読を行う。査読委員は論文誌編集委員会が推薦して、事務局から査読を依頼する。

## 3. 原稿の内容と体裁

### 3.1 印刷時の体裁

1. 原稿は A4 ポートレート(縦長) とする。
2. 上余白は 20mm、下余白は 15mm 程度とする。
3. 左余白、右余白は、25mm 程度、段落の

間は 10mm 程度とする。

4. 本文は読みやすい文字間隔・行間隔をとること。
5. 本文のフォントは後述するように 10.5 ポイントとするが、10.5 ポイントが難しい場合は 11 ポイントでも良い。
6. 1 ページは 41 行×20 字× 2 段組とする。

### 3.2 見出しなど

表題から電子メールアドレスまでの記載順位は以下の順とし、これらについては一段組で中央揃えとする。文字フォントも下記に指定されたもの、またはそれにできるだけ近いものを採用すること。

1. 日本語タイトル  
ゴシック体、14 ポイントとし、太字で強調すること。
2. 英文タイトル  
Century、14 ポイントとする。
3. 日本語執筆者名  
明朝体、12 ポイントとし、次のような点に注意すること。
  - 名字と名前の間は全角のスペース 1 個を挿入する。
  - 複数の執筆者がいる場合には、名前はカンマで区切ること。
  - 所属毎に、マークで識別して、所属部局、住所、電子メールアドレス等の補足情報は脚注に記述する。ここでの脚注マークには数字以外のマーク(\*、†、‡、等) を使用すること。なお、電子メールアドレスの記載は任意である。
4. 英文執筆者名  
Century、12 ポイントとし、次のような点に注意すること。
  - 名前と名字の間は半角のスペース 1 個を挿入し、名字は全て大文字で記

載する。

- 執筆者が2名の場合は and でつなく、著者が3名以上の場合には、最後の人はカンマと and でつなく。
- 所属毎に、日本語名と同じマークで相互の関係を明示し、日本語の補足情報と同様に英文の補足情報を脚注に日本語の情報に続けて記述する。

#### 5. 日本語所属

明朝体，10.5 ポイントとする。組織の代表名のみ記述する。

#### 6. 英文所属

Century，10.5 ポイントとする。組織の代表名のみ記述する。

### 3.3 アブストラクトとキーワード

第3.2節で示した項目に続けて、アブストラクトとキーワードを次の要領で記述する。これらは左詰め、両端揃えで、一段組とする。

#### 1. 日本語アブストラクト

明朝体，10.5 ポイントとする。見出し(概要、アブストラクトなどという言葉)をつけずに本文のみを記載し、出来れば行間を少し詰め、本文との区別を分かりやすくすること。また1行の幅を本文の行幅よりも少し短くし、区別がつくようにしても良い。

#### 2. 日本語キーワード

明朝体，10.5 ポイントとする。例は本稿を参考にされたい。

#### 3. 英文アブストラクト

Century，10.5 ポイントとする。日本語アブストラクトと同様の配慮を行う。例は本稿を参考にされたい。

#### 4. 英文キーワード

Century，10.5 ポイントとする。例は本稿を参考にされたい。

### 3.4 本文

本文は二段組とし、著作の種別によらず、

同一の形式とする。本文は明朝体，10.5 ポイントとする。次のような点に注意すること。

1. 英語の略語には括弧書きで(フルスペル)をそえること。
2. 句読点は“，”と“.”(カンマとピリオド)とし，“、”と“。”ではないので注意されたい。
3. 項番の付与方法は次の例に従うこと。見出しはゴシックとすること。

#### 1. セクション

##### 1.1 サブセクション

また、「1. セクション」のようなセクションの見出しは本文よりやや大きめの13ポイントとする。また「2.1 サブセクション」のようなサブセクションの見出しは本文とセクションの見出しの中間の大きさの12ポイントとする。

#### 4. 図・表については次の通りとする。

- 原則として本文中に取り込むこと。
- 段組の制約を受けないが、二段にまたがる場合には上か下にまとめること。
- 図には図の下に、表には表の上に名称を記載するものとし、名称の表現については次の通りとする。

図・表種別，図・表番号，スペース1個，図・表の名称

<例>

図1 システム構成図

5. 参考文献は文末(著者略歴の前)に「参考文献」という見出し(ゴシック左詰め)に続けて、両括弧付の通し番号、著者名、論文タイトル、書名または論文誌名、巻号、ページ数、発行年という順番で記載し、参考文献は引用場所<sup>1),2)</sup> というように記載することとする。URLによる引用は、時間の経過につれて実体を参照できなくなる可能性があるため、できるだけ避けて欲しいが、やむを得ない場合には例のように記述する<sup>3)</sup>。参考文献は引用順に記載する

こと。

6. 著者略歴は参考文献の後に「著者略歴」という見出し(ゴシック左詰め)に続けて、著者の写真(第一著者のみ、白黒が望ましい、40mm×30mm)、名前(ゴシック)、略歴(全員)を写真の右側から書き始め、二段組で記載する。略歴は、原則的に改行なしで一人分を10行程度以内にまとめる。

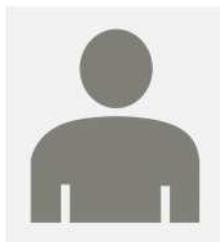
## 謝辞

本研究の実施に際しては ×大学の 教授に有益なご指導を頂きました。ここに記して感謝の意を表します。

## 参考文献

- (1) 山太郎, 川花子, 谷吉男:“大学情報システム環境研究 Vol18”, pp.13 - 18(xxxx)
- (2) 国公立大学情報システム研究会  
<http://www.is-ken.gr.jp/>  
(xxxx年x月x日 原稿受付)  
(xxxx年x月x日 採録決定)

## 著者略歴



**山太郎** xxxx年情報環境大学卒業, xxxx年同大学院 研究科博士後期課程修了, 同年4月同大学 学部助手, xxxx年同大学情報処理教育セン

ター准教授, xxxx年同大学教授, xxxx年4月からxxxx年4月まで情報基盤センター長, 工学博士。

**川花子** xxxx年3月 大学卒, 同年4月富士通株式会社入社, SE部門に配属, 以来関東地区の大学研究所関係のシステム構築・運用支援・PKG開発などに従事, xxxx年4月から現職。